

2023年度 日本工学院専門学校											
デザイン科 グラフィックデザイン専攻											
実践課題制作(1)											
対象	3 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	60(120)	単位	2(4)
担当教員	西田真一			実務 経験	有	職種	クリエイティブディレクター				
担当教員紹介											
※この授業では2種類の異なる目的の実習を60時間づつ設定し授業を実施します。 グラフィックデザイナーからアートディレクターと経験し、現職は広告代理店にてクリエイティブディレクターを行なっている。広告業界の経験が長期あり、特にコミュニケーションデザインやブランディングデザインを中心に行なっている。関心領域は「地域ブランディングデザイン」「コンセプトメイキング」「コミュニケーションデザイン」である。											
授業概要											
ブランディングデザインの基礎知識から、ブランディング構築・システム化、コミュニケーションデザインまで、一貫して行うプロジェクトを想定し、問題→課題→解決策の考え方を習得する。この経験により、実際のプロジェクトでのデザイナーとしての役割やできることを学び、社会での即戦力としてのスキルを身につける。プロジェクトは、地域ブランディングデザインを題材に各自で進めていく。											
到達目標											
地域ブランディングデザインプロジェクトの全ての行程を経験する。デザインの力によって課題解決できることを実感し、その術を習得する。最終的なアウトプットは的確な表現になっていて、理論的にわかりやすく説明（プレゼンテーション）ができる。最終的に各自対象の市区町村に自主提案できる内容まで完成度を高める。											
授業方法											
最初にパーソナルブランディングを行い、各自対象地域を設定しプロジェクトとして進めていく。前半と後半の2部に分けて実施し、授業毎にブランディングデザインする上でのポイントとなる内容の講義を聴講し、実習を行う。前半はブランディングの基礎理解から、ブランディングデザインによるアウトプット（ロゴやキャッチフレーズ）提案を行う。後半はその地域ブランドをコミュニケーションデザイン開発（広告やサイン）を行う。											
成績評価方法											
プレゼン	30%	制作物の発表方法、内容について評価する。									
課題完成度	40%	提出課題の完成度を総合的に評価する。									
リサーチ	20%	制作準備と過程を評価する。									
平常点	10%	積極的な授業参加度、態度によって評価する。									
履修上の注意											
毎回の授業にて課題が出る。一度未提出になるとその後の授業での課題提出量が増加していくことになる。随時提出できるように準備が必要である。また、授業は段階を追ったプロジェクト形式になっていることから、全ての授業を受講することが望まれる。課題提出などにGoogle classroomを使用する。											
教科書教材											
講義ドキュメント・参考資料・参考作品は、授業中に配布する。 各自MacBookを持参する。											
回数	授業計画										
第1回	オリエンテーション・パーソナルブランディング：自己のイメージを形にすることでブランドを理解する。										
第2回	ブランディングデザイン・リサーチ：ブランディングデザイン基礎について理解する。リサーチを理解し、行う。										
第3回	ブランドポジショニング：イメージボード・ポジショニングマップを理解し、作成する。										
第4回	コンセプトメイキング：USP・デザインコード・コンセプト・ステートメントを理解し、設定する。										
第5回	コピーワーク：コンセプト・ステートメントを基にキャッチフレーズを開発する。										

2023年度 日本工学院専門学校	
デザイン科 グラフィックデザイン専攻	
実践課題制作(1)	
第6回	デザインワーク1：コンセプト・ステートメントを基に、ビジュアルアイデアを数多く出す。
第7回	デザインワーク1：コンセプト・ステートメントを基に、ビジュアル表現を開発する。
第8回	デザインワーク1：ビジュアル表現を精緻化する。
第9回	プレゼンテーション1（1日目）：ブランディングした対象物をわかりやすく説明する。
第10回	プレゼンテーション1（2日目）：ブランディングした対象物をわかりやすく説明する。
第11回	コミュニケーションデザイン：コミュニケーションデザインを理解し、設計する。
第12回	デザインワーク2：デザインコード・トーン&マナー・コンセプトを基に、デザイン展開する。
第13回	デザインワーク2：デザインコード・トーン&マナー・コンセプトを基に、デザイン展開する。
第14回	デザインワーク2：デザインコード・トーン&マナー・コンセプトを基に、デザイン展開する。
第15回	プレゼンテーション2：対象物のコミュニケーションデザインをわかりやすく、魅力的に説明する。

2023年度 日本工学院専門学校											
デザイン科 グラフィックデザイン専攻											
実践課題制作(2)											
対象	3 年次	開講期	前期	区分	必修	種別	実習	時間数	60(120)	単位	2(4)
担当教員	荻野 龍登			実務 経験	有	職種	映像クリエイター				
担当教員紹介											
※この授業では2種類の異なる目的の実習を60時間づつ設定し授業を実施します。 2013年、工学院大学大学院工学研究科情報学専攻修士課程修了。学部在学中より研究の傍ら独学で映像を学び、卒業後はフリーランスの映像クリエイターとして独立しYouTuber向けの動画・アニメーション制作などインターネットを拠点に活動を開始。現在は子ども向けのアニメーションから大手企業の製品プロモーション動画に至るまで様々なジャンルの映像を制作している。											
授業概要											
Adobe AfterEffects、Premiere、Illustrator、Photoshop などのソフトウェアを駆使し動画制作における企画の提案から制作さらに修正作業を架空のオリジナル商品・サービスプロモーション動画の制作を通じて身につける。											
到達目標											
基本的な技術を抑えつつ、自由な発想のもと制作に取り組んでいただきたい。 最終日には課題についてプレゼンテーションを行ってもらうため、コンセプト、技術面・表現面での工夫点、ターゲット、制作時間など作品に関する一連の説明ができるようにする。											
授業方法											
動画制作に必要なソフトウェア、主にAfterEffects、Premiere、Illustrator、Photoshopの基本及び応用操作の実例をオンラインで共有し、それをもとに各自実習を行う。											
成績評価方法											
架空のオリジナル商品・サービスプロモーション動画の企画書、初稿動画、修正動画）の提出率及び技術・理解度／プレゼンテーション／出席率、課題の内容および制作の進捗を通して、授業に臨む姿勢の適性を定量・定性的に評価する											
履修上の注意											
2年次で基本的な技術・知識は備わっている前提で授業を進めていくため、すでに学習した内容は配布済みの資料を今一度復習し臨むこと。実践的な制作を進めながら、クリエイティブマインドを高めていく。個人制作ではなく、最終決定者が第三者であることも意識していく。											
教科書教材											
Adobe AfterEffects、Premiere、Illustrator、Photoshopなど、資料に関しては授業中に配布・指定する。											
回数	授業計画										
第1回	授業内容／課題／評価方法などについてのオリエンテーション、Adobe AfterEffectsの基本操作の復習										
第2回	企画の作成：オリジナル商品の考案、プロモーション動画を構成し企画書にする										
第3回	作成した企画書をもとに字・絵コンテの作成を行う(1)										
第4回	作成した企画書をもとに字・絵コンテの作成を行う(2)										
第5回	撮影、イラスト制作などと動画編集を並行して行う(1)										

2023年度 日本工学院専門学校	
デザイン科 グラフィックデザイン専攻	
実践課題制作(2)	
第6回	撮影、イラスト制作などと動画編集を並行して行う(2)
第7回	撮影、イラスト制作などと動画編集を並行して行う(3)
第8回	撮影、イラスト制作などと動画編集を並行して行う(4)
第9回	初稿動画の完成を目指し、最終調整を行う
第10回	初稿動画に対して出された修正指示に従い修正を行う(1)
第11回	初稿動画に対して出された修正指示に従い修正を行う(2)
第12回	初稿動画に対して出された修正指示に従い修正を行う(3)
第13回	プレゼンテーションに備え準備を行う
第14回	プレゼンテーションを通し、制作のプロセス、成果物に対する第三者への理解・興味を促す(前半)
第15回	プレゼンテーションを通し、制作のプロセス、成果物に対する第三者への理解・興味を促す(後半)